

# 色素レーザーを用いた治療について

立川総合病院 形成外科 曾東 洋平



立川総合病院では、色素レーザーを用いて赤あざといわれる「毛細血管奇形（単純性血管腫）」や赤ちゃんにみられる「乳児血管腫（いちご状血管腫）」、赤ら顔の原因となる「毛細血管拡張症」、そのほかに老人性血管腫や癬痕、ケロイドなどの治療をおこなっています。このうち乳児血管腫、単純性血管腫、毛細血管拡張症の治療は健康保険の適用となっています。

治療は患部に595nmの波長のレーザー光線を照射します。レーザー光線が血液に含まれるヘモグロビンと反応すると発熱し、患部の赤みの原因となっている血管が塞がります。その後、その部分が正常

な組織と置き換わることで赤みがとれるという仕組みです。

治療に使う波長は異常のある血管にだけ反応するので、通常の治療では、正常な血管を傷つける心配はありません。

毛細血管奇形はポートワイン母斑ともいわれ、生まれつきのもが多く、基本的には消えません。成長するにつれ色調が濃くなったり皮膚が厚ぼったくなったりします。なるべく早いうちからレーザー治療を開始したほうが色の改善が良いというデータがあり、生後早期からの治療でも構いません。

## 乳児血管腫の治療例



治療前

照射後

乳児血管腫は生後数日から1か月くらいから目立ち始め、徐々に盛り上がっていきます。個人差はありますが、1歳ころから自然に縮小し、消退します。生後の大きくなる時期に治療を開始したほうが増大を抑え、早期の縮小を招くとされています。ただ皮下の下で大きくなるタイプや増大スピードが早い場合等は内服治療のほうが有効な場合があります。

当院ではシネロン・キャンデラ社の<sup>ファイブムツ</sup>Vbeam IIという色素レーザーによる治療器を導入しています。この治療器は、厚生労働省によって承認された器械であり、レーザー照射直前に皮膚に冷却ガスを噴射する装置を内蔵しているので、皮膚への熱損傷を最低限に抑えながら治療をおこなうことができます。

## 毛細血管拡張症の治療例



治療前

1回照射後

シネロン・キャンデラ社製  
Vbeam II (ファイブムツ)